



~ 13
3109
2上



門 へ 13
流 3109
卷 2

東唐細見嘯

巻之三

放蕩符

斯て芭蕉平ハ大陸由りてさぬぐれ行り

ぬ事ともとありこんあき夜のゆると

かひて時刻もやうく夜半の法家同れ祿入

と幸ひよそらとぬけお目高もやうに町

えとつそげも登でさ人毎りのなきま

ハ夜ぬ内ハゆへくむりのきく祿もゆ

五

一は只瀬川と風吹海う鏡殿と嵐とさうせうを
 二村余りよ水の音はとえく并来に松原の
 一はぐせん煙筒とくまんだまきて墨丸風
 京人さそせと西も東もさびれさうあ
 たるいて亮夜のどくめうさせはねはあ天亮

一は只瀬川と風吹海う鏡殿と嵐とさうせうを
 二村余りよ水の音はとえく并来に松原の
 一はぐせん煙筒とくまんだまきて墨丸風
 京人さそせと西も東もさびれさうあ
 たるいて亮夜のどくめうさせはねはあ天亮

二二の里も波内りともう一日の暮人あつたれ
バ気色も日つたりと成ふきづいづんきも対
の中より一息つぎ又羽衣と行まり遭際を
とづ祢んをいまづ天依らん陰陽とつど
大やうち陰あまかき夏不秋合にうづまゆかき
あぐの風とぬめバそのあれ対合でまは
かうはとかくまきんぐに音とわらあまあうバま
へつりだつとねまん計り羽衣よついで

まうら一機たつて飛跑る日とまうて日さ
めもあづべ凡十日計り小ちあ十六万里もさ
とあふはつと向ふをくれをぞと果も定
めあう大海へくくまの磯色よあ敷子
新汁も立あつてい一あま後より羽衣が物
招きを傾聴るまきバ向ふよんあが真率放
あんとあ志せよ芭蕉平もくれくか
まうら道教も二里たつてあれハ

三
三
三
の隣^{ともり}にほろ地^ちをた^たりて先^まあるべ^べなる^{なり}こそ
く^くとそ^そう^うあ^あら^らと^と見^みゆ^ゆら^らよ^よじ^じの^の人^{ひと}物^{もの}
さ^さう^うたい^{たい}の^の風^{ふう}俗^{ぞく}も^もり^りが^がく^くお^おろ^ろく^く月^{つき}の^の名^なを^を
大^{だい}ぜ^ぜい^い借^かけ^けり^りと^とつ^つま^まく^くる^る人^{ひと}も^もえ^えに^によ^より^りて^て極^{ごく}
と^とぞ^ぞれ^れば^ばま^まは^は船^{ふね}と^と木^きが^がり^りき^き人^{ひと}の^のい^いふ^ふを^をし^しる^る
る^るふ^ふの^のり^りぞ^ぞと^とむ^むく^く一^{いっ}枚^{まい}に^に既^{すで}ど^どか^かく^くあ^あら^らて^てい^い
ゆ^ゆり^り者^{もの}も^もえ^えぬ^ぬ風^{ふう}神^{かみ}又^{また}ま^まは^はく^くる^る人^{ひと}と^とぞ^ぞれ^れ
ハ^ハ越^こ中^{ちゆう}の^のづ^づさ^さく^くと^とし^した^たる^るお^おら^らい^いと^とぞ^ぞか^か

ハ^ハ越^こ中^{ちゆう}の^のづ^づさ^さく^くと^とし^した^たる^るお^おら^らい^いと^とぞ^ぞか^か
か^かく^く漉^こ籠^{ろう}さ^さげ^げて^て雪^{ゆき}花^{はな}菜^な々^々ふ^ふり^りも^もあ^あら^らて^てく^く
の^のち^ちう^うい^い何^{なに}ぞ^ぞん^ん中^{ちゆう}と^とバ^バ極^{ごく}め^めん^んと^とあ^あら^らは^はる^るま^まし^して^て
一^{いっ}月^{げつ}づ^づの^の賃^{ちやん}房^{ぶどう}が^がり^り破^{やぶ}費^ひと^とそ^そら^らを^をん^んだ^だて^ての^の
行^いく^くま^まの^のあ^あま^まも^もる^るに^に吾^{われ}だ^だて^ても^もし^しい^い租^そ房^{ぶどう}を^をり^り
ア^ア子^こ穩^{えん}當^{どう}て^てま^まし^しり^り毎^{まい}日^{にち}く^くを^をし^しる^る所^{ところ}の^の心^{こころ}を^を打^う
信^{しん}の^のき^きき^き名^な前^{まへ}旧^{きゆう}説^{せつ}の^のま^まじ^じら^らに^に又^{また}日^{にち}々^々
と^とい^いは^はる^るま^まら^らり^りの^の風^{ふう}京^{きやう}の^の座^ざ主^{しゆ}の^の阿^あ房^{ぶどう}ま^ま
榮^{えい}ま^まの^の酒^{しゆ}高^{かう}れ^れ真^{まこと}も^もま^まま^まに^にせん^{せん}と^と甚^{しん}だ^だ

わづら死海の表ハ一面小川々天竺と後海すれぬ
石の教をまきばあゝわづら一のくまや毎のく
まのく

一徑高樊丹嶂頭洋浪

海色滿雙眸蒼波白浪

乾坤瀾賈舶官舶日夜

浮天血斜陽移遠浦雲

晴孤雁下寒洲吟餘別

被幽情引萬里異鄉忘

客口愁

持あ一といの待とゆりあとなまきと友と

よるもさうくくと目とかるふくく海山

のけいまハ陸奥の松崎最後の橋をあまの

まどまはニツよせてもるまびらうさくち地なれど

山とわづらてゆりもぐる道すくも町くもつれ

バ何ともくぢぢむくぢぢくく少く人気が

さういふふでもあられさぐりやじの道とまゝ
とよむもさく人どたくつてもあやまらせ
ど又いふし老いこつてきてもさうもさく
強い物よバ理がよつてもよまの老いぶふ
年に又さきのさのさつぐもせんとか物ハ買が
まゝさうけさぐるとさつりもさび物さく
治方癩果がさ物全祥あさいをさび小代物
後が遠いトやるさくさく遠いよさくさあかん

成りどおむふ口と見さうハおまの様子とんさく
まゝよとつていぬもあさバ小さくさくさく
トヤ三割増をさけらさや交えぬさつよい
押通一ささぬ銀でもさささつさつ、ささ
アに百の中さささけらさやんさせぬさ
くさささつさつさつさつさつさつさつ
も年年さ理さつさつさつさつさつさつ
大晦と押あてさささつさつさつさつさつ



ろるれ春盤はるばん懐いふのえうりちるぎつりの葉の
 えんぶまどく日中れ梅うめようざりまきく懐いふ
 幸しもさくこころんげに恥はと持もちくはれのかい
 物ものがまいつくつ若わかよもせぬ者もの人ひとがほつひ
 白しろくもあいらるゆもなく工こう匠じやう備ひ夫ふまかの
 職しやく人にんでもこびつらひつせうつくゆきさ
 一いちのりもせぬ一寸先いちゆんせんいかにの夜よぐ夏なつとあり
 解と又またあよ地ち代だい官くわんにさるごとくよ物ものあまきげ

ちらとくこれ無なつものいおまひくとくし身み合あ
 ぎとくあが國くにの風俗ふうじやくなけ娘やもめ獨ひとりくの
 男おとこもどはんよせんごれじとよるあく小こじ
 つしとくあひ思おもひのさう人もやうきこころ
 ろりぞもその入いれぬのこもむごくに成なりと
 一いちつとく一いち病びやう和わのあつともぬり身みがくべら
 目め小こ立たハスごういへ水みづとくを強つよの入いれりぞ
 二につとくうりこ一いちぬきついまして日ひまき匠じやう

ひやがしぬ内ふきしりかしくもるる一雅達盛會
ヤマトニシテ
 小集にも目と目下の分合とも一ツのぬれ
けりあひ
 であつとすゆめつほぐ一芭蕉年ハ
 の風俗つぐ一子よ減り一人の境畠
ふうぞく
 もさくさく下成く一志う一余りぞこ
 るゆでもあひ先人よ下れ位る一礼義ハ
くつか
 様志くどおのましく一がさねう一さいふ才
 とおのめや家来がまれと家とる一まは家来
けりうい
こけ

のり中一業とる人にとごうみくはまむ
ごん
 一とらも仁義禮智信のふ事と志すぬま
れい
 るゆらむやとふく利をとりてす一
とら
 一おまむしりてハ中一てへいれ一にたせ
さか
 の人々吾道一ちりもろ一幸ハ心い
のんこち
 るゆあ家者ハ家も廣くれば聖人の政
わか
 ぐとさくさく一だけ成く毎ふまをそそ
せん
 がつん小成物と遠新せんと十一ヶ月のヨリを
とく

一信の年小舞（舞）よしの移（て）又（い）恋（い）神（かん）と譯（こ）解（げ）
 ます一（一）ころい対（たい）扱（あ）表（へ）を尺（せき）二三寸もあ（あ）桐（きり）の
 本（もと）よ墨（すみ）くろぐ（く）こ来（こ）る二月又日（に）より（よ）遊（あ）河（が）の
 儀（ぎ）親（しん）仕（し）山（さん）俣（へ）一（一）日の（ひ）くれ（く）る夜（よ）四（し）く（く）る（る）中（ちゆう）の
 こ（こ）の（の）さ（さ）あ（あ）下（げ）下（げ）の（の）席（せき）鋪（ぽ）一（一）せんも入（い）り（り）い
 儀（ぎ）尺（せき）脚（きゃく）大（だい）日（にち）中（ちゆう）。鴻（こう）佐（さ）左（さ）の（の）と（と）名（な）も改（か）め（め）く
 出（で）ま（ま）る（る）一（一）恋（い）に（に）う（う）ろ（ろ）く（く）、招（ま）牌（ばん）と（と）る（る）が（が）し（し）ん（ん）人（にん）替（か）
 う（う）わ（わ）一（一）扱（あ）復（ふ）ら（ら）く（く）二（に）り（り）又（また）日（にち）の（の）色（いろ）が（が）お（お）め（め）ら（ら）じ
 文（ぶん）も（も）中（ちゆう）と（と）敵（てき）も（も）く（く）と（と）う（う）り（り）こ（こ）を（を）あ（あ）い（い）ん（ん）せ（せ）ん（ん）
 か（か）く（く）名（な）へ（へ）て（て）く（く）、鴻（こう）佐（さ）左（さ）の（の）お（お）り（り）い（い）ん（ん）と（と）う（う）
 一（一）た（た）が（が）儀（ぎ）親（しん）と（と）い（い）ア（ア）何（なに）の（の）ゆ（ゆ）ぢ（ぢ）や（や）諸（しよ）志（し）あ（あ）ら（ら）者（しや）
 八（はち）あ（あ）い（い）く（く）門（もん）は（は）下（げ）は（は）く（く）に（に）あ（あ）る（る）の（の）あ（あ）ら（ら）中（ちゆう）下（げ）も（も）小（こ）ア（ア）
 八（はち）い（い）の（の）名（な）主（しゆ）分（ぶん）別（べつ）り（り）記（き）親（しん）と（と）儀（ぎ）尺（せき）尺（せき）乃（の）
 三（さん）け（け）し（し）あ（あ）く（く）す（す）そ（そ）儀（ぎ）尺（せき）と（と）い（い）ん（ん）が（が）る（る）や（や）う（う）い（い）ふ（ふ）れ（れ）い
 う（う）心（しん）付（つ）よ（よ）貼（て）物（ぶつ）と（と）や（や）と（と）物（ぶつ）志（し）あ（あ）ら（ら）ま（ま）ん（ん）よ（よ）い（い）ふ（ふ）れ（れ）い
 せ（せ）ば（ば）い（い）ア（ア）い（い）ま（ま）ま（ま）ら（ら）ぶ（ぶ）と（と）や（や）う（う）い（い）ふ（ふ）れ（れ）い

文（ぶん）も（も）中（ちゆう）と（と）敵（てき）も（も）く（く）と（と）う（う）り（り）こ（こ）を（を）あ（あ）い（い）ん（ん）せ（せ）ん（ん）
 か（か）く（く）名（な）へ（へ）て（て）く（く）、鴻（こう）佐（さ）左（さ）の（の）お（お）り（り）い（い）ん（ん）と（と）う（う）
 一（一）た（た）が（が）儀（ぎ）親（しん）と（と）い（い）ア（ア）何（なに）の（の）ゆ（ゆ）ぢ（ぢ）や（や）諸（しよ）志（し）あ（あ）ら（ら）者（しや）
 八（はち）あ（あ）い（い）く（く）門（もん）は（は）下（げ）は（は）く（く）に（に）あ（あ）る（る）の（の）あ（あ）ら（ら）中（ちゆう）下（げ）も（も）小（こ）ア（ア）
 八（はち）い（い）の（の）名（な）主（しゆ）分（ぶん）別（べつ）り（り）記（き）親（しん）と（と）儀（ぎ）尺（せき）尺（せき）乃（の）
 三（さん）け（け）し（し）あ（あ）く（く）す（す）そ（そ）儀（ぎ）尺（せき）と（と）い（い）ん（ん）が（が）る（る）や（や）う（う）い（い）ふ（ふ）れ（れ）い
 う（う）心（しん）付（つ）よ（よ）貼（て）物（ぶつ）と（と）や（や）と（と）物（ぶつ）志（し）あ（あ）ら（ら）ま（ま）ん（ん）よ（よ）い（い）ふ（ふ）れ（れ）い
 せ（せ）ば（ば）い（い）ア（ア）い（い）ま（ま）ま（ま）ら（ら）ぶ（ぶ）と（と）や（や）う（う）い（い）ふ（ふ）れ（れ）い

やくぢや ハテ 叔^{ハテ} 目^{ハテ} けもあいのその顔^{ハテ} 下^{ハテ} かくやく
とふが日^{ハテ} 中^{ハテ} でハ 儀^{ハテ} 狀^{ハテ} といひまはとせう^{ハテ} けい
あぐ^{ハテ} 休^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} 角^{ハテ} 入^{ハテ} ぐ^{ハテ} やく^{ハテ} こ^{ハテ} 大^{ハテ} 勢^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支
ら^{ハテ} たり^{ハテ} 主^{ハテ} ト^{ハテ} ハ^{ハテ} 中^{ハテ} ぐ^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
か^{ハテ} 一^{ハテ} 高^{ハテ} 床^{ハテ} の^{ハテ} 之^{ハテ} あ^{ハテ} ぐ^{ハテ} り^{ハテ} 庭^{ハテ} 州^{ハテ} の^{ハテ} 中^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支
只^{ハテ} 今^{ハテ} ら^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
に^{ハテ} 行^{ハテ} 義^{ハテ} と^{ハテ} 正^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
の^{ハテ} 中^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
の^{ハテ} 中^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}

と^{ハテ} 法^{ハテ} め^{ハテ} り^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
志^{ハテ} あ^{ハテ} ら^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
事^{ハテ} 別^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
礼^{ハテ} 節^{ハテ} と^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
叔^{ハテ} 肉^{ハテ} の^{ハテ} 中^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
全^{ハテ} 家^{ハテ} 儀^{ハテ} と^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}
と^{ハテ} 一^{ハテ} 事^{ハテ} して^{ハテ} 支^{ハテ} ち^{ハテ} 存^{ハテ} ち^{ハテ} の^{ハテ} 人^{ハテ} あい^{ハテ} ち^{ハテ} 道^{ハテ}

仁義礼智信と云ふ事のまけおきうた
 成主人もいやまひ親兄弟とを切にする
 成事まの事なりと申す日なり一年の
 始る正月とづくと悦びてゆく之れを
 妻の始の事悦びて申す人波心やよしひせ
 ば日づう一口二口の講釈に大概が打暖まど
 くらうくらうなりともあつて法い
 てもせぬ御りなる位事ハ云やじりや

ちげふつとくうまおりの事
 多の事つとぶやとくつは志ある内よ今
 花の事やとくまゆきハ法ある譯解の事
 刺まらなくも成どふ中つかりる事
 ことし出いあの事人よあぬ若也とも一
 こといにしてさういおきもけ
 世の事あがまあといとさそい合味合老
 多男女うらませそとやくと日の事

つめくられ、依れぬハ序よふと、
相タアの次と弁べんよまり、
のめがまろ、
が、
評判正と譯解あつとく、
の氣ととく、
又中りに、
も、
能く、
の若も、
前、
又、

せいもつ、
子紙二と、
講釋場と、
我も、
去る、
ハ、
と、
か、



あつらん
あつらん
あつらん

あつらん
あつらん
あつらん



あつらん
あつらん
あつらん

あつらん
あつらん
あつらん

上庭洲
大目
池来海
藩那山
悠

こころり門下で志多くのくろくあふこころ
 ときげ并揮るくろくも人の隠悪
 親のまのめがめとめがめあまのまとかゆ牛
 親の子と老の父親の孝りとそ
 只鴻依なるを所の老翁のどくもてる
 そまはは美酒珍者としてくよび追はそ
 こころも憐人なてもかろきやくかろくこ招
 請くろくもくれ是とこころも奪も還過

心のまに玉風とくろく事なれはもふんあはも
 ころこお月くの人よいとぬんくろくも
 かりんおくろくもまらうおあは又再せん
 羽衣とくろくも何れもまらく又花うろく

日用たしあふ

論語讀の論語をくろくもつるめくろくも
 子物うろくもくろくもこれ論語をくろくも
 もんつですあ行候くろくもあがめて

いたる所のむらきに似て事ども今時の人の
 四書一節よむこふままと白帛(びやく)ぶたたり
 一物(ひともの)よりも聖人(せいじん)の行(な)への三のてふまき
 のと道(みち)をといふなり敵(かた)もこれに利(り)は
 ふそのいふに極(たぎ)よる人(ひと)ど是(こゝろ)でよいとて
 りゆいあのおし四書(ししよ)も讀(よ)み難(がた)もなきぬか
 却(かへ)思案(しあん)ふまざりいな人の會(かい)領(りやう)する極(たぎ)
 つまびゆうん(つまびゆうん)受(う)けとる一物(ひともの)たりとまんで

ねくはそらとぬるをとい難(がた)為人(ひと)人の教(しよ)授(じゆ)り
 なはばどづらまは五帝(ごてい)れとらもきり
 人(ひと)すまきく、悪(あく)もあまび思(し)ひ
 あとよらとくひりとととバむりととに
 あぬれがよそくやうる分の貪(あま)得(とく)とあま
 もせば因(いん)約(やく)ともいともはえよるとまよげい
 になとらとら又(また)人の善(ぜん)悪(あく)よるゆもあ
 毎日(まいにち)くのはましく餽(く)ひゆかのかくもなき

東唐細見嘯

卷之四

正壽

無真符

芭蕉平ハ放蕩之と立おく海とく山と
 之相杯ク一但せくとぶふたに所種小乃
 ころごきして又三葉里斗りよとこ日うるま
 あるいよとふも中つかりん候してもるがめて
 てもまじふていまらもあぐせんうまげよせい
 つし。おんにあしとせむかふ古くそとてくか



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二百里余りも中とどどともまどく日らきくは
ふん下せバ家殺り得く立つてさ熱い開い小
ちり一都會ありふれくも目のくくる芭蕉平ん
すそみりて行きまぐるとけまうい無真玉も
やけまどされと格あうりしまもあし
足ととめらまきよく羽衣の折くはせいさく
荒おりて一所のつりま地の花景とふる月には
昏黒地ふるれバ物のあつらもさうりがくく
ま

うびのゆるれをまめてくまぐさやぐもさく
るけまびくの軒に夜とめりまの亮越来
天照神にまいとるサテまると毎日町く山絡
くと古金買う紙らび買のあるく持よんあつ
是まやあるまうまくはまうりり日年の初
おぬ町の家つてきお神の人物やうん
放蕩まうハ又遠下て男も女も所せ
整りと客儀摸了標致流りのあらいおソ



へしきくもれむしん
 彼の人の様ふさくが伶俐的人いふおま
 人舟のよい男トやあそとくづりのゆいおまの
 んどうごうもまるハ儀も成るもそまおま
 の筆とるゆいついよけいもくもまき二ま
 めまほうや包子のヌツもいもあーいふてあ
 てくるこまゆい子ふぢもまきく村分ーやあ
 漬とまんぜや扱もまのまいさくく入れぬ

うるよ火も入てあうもまきくいふおま
 物ぬあともせぬ影の人の没生計まるあ
 かう浮世のさくとも白欄をるーおまのさうま
 かふいらがすつていもそまも又さういあ
 下もゆいの人があむ物とさうまよま
 かけるあせゆあまも足奉りもあ白ま
 にかまどくのあ人いすぐ一層んで枕むを
 の枕んで仕とくが特地誦諷ソも一通りのあ

例^{かり}が^せ漸^なく^なむ^せの^{せい}盛^さ衰^{すい}より^ふ二^に代^{だい}先^{せん}小^{せう}格^{かく}自^じ余^よ
の^えも^とと^せ黄^{わう}の^やぐ^んを^りう^きう^てら^しう^て親^{しん}
方^かが^た代^{だい}の^きど^がが^んが^らび^ひ今^{いま}い^まの^つま^まの^ま
う^らう^て家^け来^{らい}の^のが^あれ^はお^の格^{かく}式^{しき}は^ある^も
か^ので^つう^てう^らう^ての^のま^まの^おの^のま^ま
し^やべ^つな^くま^んの^の孫^{まご}と^おな^をさ^んご^うむ^いも
稚^ち丁^{てい}に^ごよ^のや^まよ^いと^いい^まあ^らう^てら^しう^て親^{しん}
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け

と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け
と^いう^せど^と世^よは^はら^うん^の家^け先^{せん}祖^そが^べつ^け別^{べつ}家^け

口
口



質とくらりこびるあんなとて入る
とと並成布ど三百年もいぜんの
あしとせばぜんい人のんもあ
義士孝子貞女の人もあ
おろるゆよも法と道とと
ことあうすらののいはずと
何ともいふ世はよくよ
強ととせらるるび若うは
かまのせこむうの

教訓もこののあも日本の地と
めぐるま角よりくのお風
四ツの玉がま遠くはと十
とてあ一ふのたのひと
悲哀るをもあ
あまがまざりふんぐりの
けまろてとどめあ
れん見よあふはあはけ
あまのありまのれ

子ソゾ人とするがけりあるニハク（イ）方便（イ）
 是（イ）つらふもいふもあひ一（イ）まづたゞくまうり
 物集山（イ）まで天物（イ）房（イ）又（イ）舞（イ）一（イ）他人（イ）よども
 成（イ）べしと羽（イ）衣（イ）しつ（イ）く（イ）つら（イ）う（イ）枝（イ）葉（イ）園（イ）の（イ）色（イ）
 とも（イ）と（イ）り（イ）て（イ）之（イ）り（イ）なる（イ）目（イ）出（イ）る（イ）子（イ）の（イ）誌（イ）乃（イ）
 攝（イ）西（イ）去（イ）東（イ）去（イ）と（イ）め（イ）ぐ（イ）り（イ）つ（イ）る（イ）芭（イ）蕉（イ）平（イ）が（イ）る（イ）た（イ）ら（イ）り
 玄（イ）の（イ）い（イ）あ（イ）ら（イ）め（イ）く（イ）書（イ）跡（イ）を（イ）

東唐細見齋 卷四大尾

天明三年

卯正月

